



個々のリハビリテーションのベースとして 「写真で見るリハビリテーションの実際(I)(II)」

大塚 哲也 著

I 巻 211頁, 2000円, II 巻 256頁, 2600円 各 B 5 版 医学書院刊

臨床医学に欠けているものとして、リハビリテーションが脚光をあびてから既にかかなりの年月が経った。しかし、ほとんどすべてといって良いほど多くの一般病院ではいかにすべきかの実際面で行きづまっているのが現状である。教科書を読み、講義を受け、さらに実地の習練を経てはじめて実際に利用価値のある医学的知識が固定するものであるが、リハビリテーションに関しては大学での講義もなかったし、医局生活でも誰も教えてくれなかった。それではきわめて実地的な教科書はというとこれもほとんどないといって良い。ラスクおよびクルーゼンの教科書は共にリハビリテーションのバイブルとでもいうべき本であるが、バイブルだけ読んだのでは信仰の何たるかが良くは分らないように、これらの本の知識のみではリハビリテーションは出来ない。また、最近になって運動療法、作業療法、あるいは

各疾患別のリハビリテーションについての図書が出版されて来ている。仮にこれらの本を全部読んだ人がいたとしても、リハビリテーションに関して実地で習練を受けなかった医師はやはり実施をためらうであろうと思う。リハビリテーションはそれほどに「身」で憶えなければならぬものである。この場合に、文字通り「身」で憶える機会を持ちうる人は良いが、その数はごくわずかである。したがって次善の方法としては多くの人々に視覚的に理解してもらうことが浮び上って来る。

この本は大部分が文字よりも写真で占められている。「片麻痺の階段昇降訓練」というようなものがどのように行なわれるのかを文字によるよりもはるかに雄弁に示してくれる。もちろんその説明もあるが、あくまで補助的であるのが特色である。

I 巻は一般論である基礎的知識にはじまり各疾患に触れている。

II 巻にはリハビリテーション施設の設計、理学療法に必要な機械、器具、作業療法に必要な機械器具が巻初の三項となっていて、新しいリハビリテーション部を設けようとする場合には良い指標となる。この巻の大部分は次の義肢装具で占められている。内科系の医師やPTにとって最も苦手とするものが豊富な写真と図解でわかり易く示されている。

この本は何となく遠い感じであったリハビリテーションを身近かに引よせてくれる本であるといえる。したがって、これからリハビリテーションを始めようとする医師、または本は読んだが手の出ない医師に第一におすすめする。第二には、ごく狭いリハビリテーションをしているPTに推称する。リハビリテーションの分野は広く、ただ一つの病気を十分につつこんで行っても良いが、それを進歩させるものは広いベースである。(東大) 佐々木智也